

第4回地域連絡会ダイジェスト

第4回地域連絡会を開催しました。

両国地域 A～D エリアを横断して情報交換を図る地域連絡会が開催されました。第4回地域連絡会では、3月に開催された「両国春のまちブラ vol.2」のふりかえりとこれからの取組、地域の情報について、共有と意見交換を行いました。

開催概要

日 時 : 平成28年5月26日(木) 18時30分から19時30分
場 所 : 江戸東京博物館 学習室1
出席者 : 立川二・三丁目町会、立川菊川まちづくり研究会、石原二丁目商店会、
NPO 法人隅田川・江戸文化観光振興会、JR 東日本千葉支社、
江戸東京博物館 計9名
アドバイザー : 大下先生(帝京大学経済学部観光経営学科長・教授)
事務局 : 墨田区都市計画課、観光課 計7名

参加者からのご意見

両国春のまちブラ vol.2 住民の参加とイベントの充実について

- ・安兵衛公園では、住民と新発田市の方々をお呼びして除幕式等が行われた。住民の反応もよく、今後も行っていきたいという声が多く聞かれた。
- ・各拠点の充実が大事だ。拠点ごとのイベントのメニューを増やした方がよい。
- ・今後、住民参加型の催し物をやっていると楽しくなるのではないかな。
- ・江島杉山神社は、お茶席があったので楽しくおもてなしができ、滞留時間も長かった。
- ・メイキングドラマをつくれるとよい。モチベーションが上がり、参加している実感ができると楽しめるのではないかな。

両国春のまちブラ vol.2 広報について

- ・菊川駅からの来場者については、江東区と協調して宣伝できるとよいのではないかな。
- ・地元の小・中学生がほとんど見当たらなかった。小中学校に宣伝したら、もっと広く楽しんでもらえるのではないかな。

地域の活性化について

- ・安兵衛公園については、7つの町会で区に働きかけて改修することになった。地域が一体となることが大事だ。
- ・地域の活性化が必要だ。町工場がなくなり、マンションが増えた。若い方々にどう関わっていただくか、どう取り込んでいくか、工夫したい。

大下先生からのアドバイス

両国春のまちブラ vol.2 アンケート結果より

- ・満足度：満足の回答が多いが、期待されていなかった結果の現れとも言える。来年、同じ人が来た場合は、期待して来られるので、同じ結果にはならない。
- ・拠点間の移動ルート：色々なパターンが見られておもしろい結果となった。複雑な動き方をすると、滞留時間が増える。
- ・広報活動：定着率を考えるとよい。距離と時間から、ターゲットは近いほどよい。学校への呼びかけ、一駅二駅の近隣への輪を広げること、台東区からの外国人観光客の誘致を考えるとよい。
- ・イベントの時期：年2回開催すると失敗するケースもある。大事なことは、継続性と定例化。効率性と効果から、地域が一番楽しめる時期に開催するとよい。これにより、新しい住民がまちに出るきっかけをつくり、新たに参加した人が将来の協力隊として育っていくことになる。

今後の取組に向けて

- ・まちづくりの取り組みルール（作法）を共有するとよい。例えば、みんなで取組む3つのルールをつくり、仲間を広げていくとよい。
- ・地域を回遊させる方法として、江戸時代からやっていた手法が2つある。一つ目は収集法（何かを集めて回る：スタンプラリー）、二つ目は名数法（金沢八景では8つの景色を回ってひとつになる）。富嶽三十六景で例えると、36枚のカードを作って、地域の各場所において回遊をさせ、36枚集めてつなげると裏は江戸時代の地図になるといったことが考えられる。

今後の観光まちづくりの展開について

- ・観光まちづくりは区が基盤をつくれれば実現するものではない。区と地域の方々が一緒につくることが肝心。当初は区が先導的な事業を行っていたが、今後は住民が主役になり行政は後ろから支えていく。観光まちづくりへの関心の低い住民にも加わって頂き、みんなで作り上げていくことが大事。